

第4節 地産地消プロジェクト

森林・農業地域と市街地のお互いの良さを活かした連携を図り、農林業の活性化・振興を図っています。また地産地消の仕組みをよみがえらせ、生産者と消費者の顔が見える関係を目指します。

【奈良市環境基本計画（改訂版）の関連指標】

指標	平成24年度	平成25年度	目標値 (平成33年度)	担当
市民ふれあい交流事業 (ミニ直売所)(箇所)	4	6	10	農林課
達成度	波及効果	効率性	推進会議のコメント	
1	3	3	成功事例から導入パッケージを作成し、普及及び開催数を増やしていく。また、達成度が低い理由を明確化し、具体施策の見直し実施が必要である。更に、食農体験ができることも入れた参画型の交流ができると良い。	
総合評価				
C				
指標	平成24年度	平成25年度	目標値 (平成33年度)	担当
農業地域と市街地との 交流参加者数(人)	99	81	100	都祁行政 センター 地域振興課
達成度	波及効果	効率性	推進会議のコメント	
4	3	3	農業体験など予算の使用を工夫し、地域と一体となった施策から参加者増につなげ、継続して来場したいと感じる取組に期待する。	
総合評価				
B				
指標	平成24年度	平成25年度	目標値 (平成33年度)	担当
奈良県産学校給食食材 地産地消率(%)	34.62	35.29	40	保健給食課
達成度	波及効果	効率性	推進会議のコメント	
1	3	3	学校給食という全児童・生徒に適量かつ同量の供給が必要となる部門ではあるが、出来る地域からモデル的に進めるなど、もっと積極推進すべき。単年度目標も設定し、市民とも一体となって進め、拡大進展を図ることが大事。	
総合評価				
C				

【実施事業】

1 月ヶ瀬、都祁地域と都市部との連携

月ヶ瀬、都祁地域と都市部とのふれあいの場として、月ヶ瀬では地域団体が茶摘み体験、こんにゃく作り体験、餅つき大会などを行っており、都祁では都祁まちづくり協議会が農業体験交流事業（田植え、ブルーベリー採り、稲刈り、収穫祭）を行っています。

2 市民ふれあい交流事業

【ミニ直売所】

地場産の新鮮で安心・安全な農産物の消費を促進するとともに、生産者と消費者のふれあい交流を推進するため、平成25年度は、鳥見、富雄、赤膚、左京、済美南及び白毫寺の6箇所においてミニ直売所を実施しました。



【彩マーケット】

平成23年度から毎年秋に市役所前広場にて開催している市場で、奈良市産の新鮮で安心・安全な野菜や加工品などを生産者自ら販売していただくことで、都市住民と農村住民のふれあい交流を図るとともに、地産地消の推進を図っています。



【ふれあい交流ファーム】

農村地域において農業従事者からの耕作指導を受けながら農作物を育てる実体験を通して市民間のふれあいを深める場を「ふれあい交流ファーム」として提供しています。



3 学校における地場産農産物の利用

食育の観点から、子どもたちに生産者に対する感謝と食の大切さを学んでもらうとともに、地場産農産物の地域での消費を促進するため、学校給食への奈良県産食材利用を推進しています。平成25年度の奈良県産学校給食食材地産地消率は、35.29%となり、徐々に増加していますが、安全安心の観点からも地元産食材の需要が伸びる中、まとまった量の食材確保がさらに困難な状況となっています。